

平成27年度  
全国学力・学習状況調査

北見市の調査結果の概要

平成27年9月  
北見市教育委員会



# 平成27年度全国学力・学習状況調査 北見市の結果等の概要

## I 調査の概要

### 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 調査の対象

小学校第6学年、中学校第3学年の原則として全児童生徒

### 3 調査事項

#### (1) 児童生徒に対する調査

##### ① 教科に関する調査

ア 小学校調査は、国語・算数・理科とし、中学校調査は、国語・数学・理科とする。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など（主として「知識」に関する問題）を中心とした出題
- ・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容（主として「活用」に関する問題）を中心とした出題

ウ 出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

##### ② 質問紙調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査（以下「児童生徒質問紙調査」という。）を実施する。

#### (2) 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査（以下「学校質問紙調査」という。）を実施する。

#### 4 調査方式

悉皆調査（対象の全児童生徒）

#### 5 調査期日

平成27年4月21日（火）

#### 6 調査を実施した学校・児童生徒数

	小学校児童数	中学校生徒数
全国（公立）	1,061,301	1,016,737
北海道（公立）	42,068	40,966
北見市	924	972

#### 7 平成27年度北見市教育委員会「全国学力・学習状況調査」の結果公表取扱要領

（平成27年9月2日 北見市教育委員会決定）

平成27年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領（平成26年12月9日付文部科学省決定）に基づき、北見市教育委員会における「全国学力・学習状況調査」の結果公表の取扱いを次のとおり定める。

##### （1）北見市の小・中学校全体の結果概要については公表する。

教育委員会が保護者や地域住民に対して、説明責任を果たすことが重要であることから、北見市の小・中学校全体の結果概要について公表する。具体的な結果公表の内容としては、「小学校」「中学校」別に、次のような内容で提示する。

- ① 平均正答数や平均正答率については、公表しない。
- ② 全国や全道との比較ができる図などで結果の概要について示す。
- ③ 児童生徒の学習成果などについて示す。
- ④ 北見市の学力における取組について示す。
- ⑤ その他「特徴的なこと」についてグラフや図等で示す。

##### （2）北見市教育委員会として、個々の学校の調査結果については公表しない。

学校別の結果公表によって、序列化や過度な競争が生じることが考えられることから、北見市教育委員会として、個々の学校の結果公表は行わない。

##### （3）「全国学力・学習状況調査」の結果公表取扱については、毎年度決定する。

「全国学力・学習状況調査」の結果公表の取扱に関しては、毎年度、北見市教育委員会で審議し決定する。

## Ⅱ 調査結果の概要

### 1 調査結果の概況

#### (1) 小学校

##### ① 各科目の結果概要について

小学校では、全国と比較して、国語A・理科は「やや低い」、国語B・算数A・算数Bは「低い」という結果であり課題が見られた。

平成26年度(理科は平成24年度)と比較すると、算数B・理科において全国との差は縮小したものの、国語A・国語B・算数Aにおいてはやや広がった。

##### ② 領域別の結果概要について

【国語A】：「読むこと」は「全国と同様(下位)」、「書くこと」「伝統的な言語文化」は「やや低い」で、「話すこと・聞くこと」については「低い」という結果であった。

【国語B】：「書くこと」と「読むこと」は、「低い」という結果であった。

【算数A】：「図形」で「やや低い」、「数と計算」「量と測定」「数量関係」については「低い」という結果であった。

【算数B】：「数と計算」と「図形」は「やや低い」、「量と測定」と「数量関係」については「低い」という結果であった。

【理 科】：「物質」は「全国と同様(下位)」、「地球」は「やや低い」、「エネルギー」と「生命」については「低い」という結果であった。

##### ③ 全国平均正答率との比較 ◎高い/やや高い ○同様/同様(上・下位) ●やや低い ▼低い

###### ア 全教科

小学校		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
		全国	全国	全国	全国	全国
		70.0	65.4	75.2	45.0	60.8
高い	+5~					
やや高い	+3~+5					
同様(上位)	+1~+3					
同様	-1~+1					
同様(下位)	-1~-3					
やや低い	-3~-5	●				●
低い	-5~		▼	▼	▼	

イ 国語の領域別

小学校		話すこと 聞くこと		書くこと		読むこと		伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	
		国語A	国語B	国語A	国語B	国語A	国語B	国語A	国語B
		全国	全国	全国	全国	全国	全国	全国	全国
		53.0	出題なし	86.0	61.1	55.2	68.1	77.2	出題なし
高い	+5~								
やや高い	+3~+5								
同様(上位)	+1~+3								
同様	-1~+1								
同様(下位)	-1~-3					○			
やや低い	-3~-5			●				●	
低い	-5~	▼			▼		▼		

ウ 算数の領域別

小学校		数と計算		量と測定		図形		数量関係	
		算数A	算数B	算数A	算数B	算数A	算数B	算数A	算数B
		全国	全国	全国	全国	全国	全国	全国	全国
		80.1	42.4	71.3	41.7	64.5	45.6	84.9	43.0
高い	+5~								
やや高い	+3~+5								
同様(上位)	+1~+3								
同様	-1~+1								
同様(下位)	-1~-3								
やや低い	-3~-5		●			●	●		
低い	-5~	▼		▼	▼			▼	▼

エ 理科の領域別

小学校		A区分		B区分	
		物質	エネルギー	生命	地球
		全国	全国	全国	全国
		57.4	65.6	61.2	57.8
高い	+5~				
やや高い	+3~+5				
同様(上位)	+1~+3				
同様	-1~+1				
同様(下位)	-1~-3	○			
やや低い	-3~-5				●
低い	-5~		▼	▼	

(2) 中学校

① 各科目の結果概要について

中学校では、全国と比較して理科は「同様」、国語A・国語B・数学Aは「同様（下位）」であるものの、数学Bは「やや低い」という結果であり課題がみられた。

平成26年度(理科は平成24年度)と比較すると、国語Bにおいて全国との差が縮小したものの、他の科目においては、やや広がった。

② 領域別の結果概要について

【国語A】：「書くこと」と「読むこと」は「全国と同様」、「話すこと・聞くこと」と「伝統的な言語文化」については、「全国と同様（下位）」という結果であった。

【国語B】：「話すこと・聞くこと」は全国平均点を上回り、「書くこと」は「全国と同様」、「読むこと」については「全国と同様（下位）」という結果であった。

【数学A】：「数と式」「図形」「関数」は「全国と同様（下位）」、「資料の活用」については「低い」という結果であった。

【数学B】：「関数」は「全国と同様（下位）」、「図形」「資料の活用」は「やや低い」、「数と式」は「低い」という結果であった。

【理 科】：「地学的領域」では全国平均点を上回り、「物理的領域」は「全国と同様」であった。「化学的領域」と「生物的領域」については、「全国と同様（下位）」という結果であった。

③ 全国平均正答率との比較 ◎高い/やや高い ○同様/同様(上・下位) ●やや低い ▼低い

ア 全教科

中学校		国語A	国語B	数学A	数学B	理科
		全国	全国	全国	全国	全国
		75.8	65.8	64.4	41.6	53.0
高い	+5~					
やや高い	+3~+5					
同様(上位)	+1~+3					
同様	-1~+1					○
同様(下位)	-1~-3	○	○	○		
やや低い	-3~-5				●	
低い	-5~					

イ 国語の領域別

中学校		話すこと 聞くこと		書くこと		読むこと		伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	
		国語A	国語B	国語A	国語B	国語A	国語B	国語A	国語B
		全国	全国	全国	全国	全国	全国	全国	全国
		79.7	72.2	73.6	36.7	86.1	62.6	72.9	出題なし
高い	+5~								
やや高い	+3~+5								
同様(上位)	+1~+3								
同様	-1~+1		○	○	○	○			
同様(下位)	-1~-3	○					○	○	
やや低い	-3~-5								
低い	-5~								

ウ 数学の領域別

中学校		数と式		図形		関数		資料の活用	
		数学A	数学B	数学A	数学B	数学A	数学B	数学A	数学B
		全国	全国	全国	全国	全国	全国	全国	全国
		67.7	63.2	63.4	39.0	61.7	30.7	63.0	31.2
高い	+5~								
やや高い	+3~+5								
同様(上位)	+1~+3								
同様	-1~+1								
同様(下位)	-1~-3	○		○		○	○		
やや低い	-3~-5				●				●
低い	-5~		▼					▼	

エ 理科の領域別

中学校		第1分野		第2分野	
		物理的領域	化学的領域	生物的領域	地学的領域
		全国	全国	全国	全国
		48.9	56.2	62.2	46.4
高い	+5~				
やや高い	+3~+5				
同様(上位)	+1~+3				○
同様	-1~+1	○			
同様(下位)	-1~-3		○	○	
やや低い	-3~-5				
低い	-5~				

## 2 各教科の結果の概要

- ◇…多くの児童生徒ができている内容
- ◆…課題が見られる内容

### (1) 小学校

#### 【国語 A・B】

「書くこと」に課題がある。目的に応じて文章の内容を的確にまとめるなど要旨を捉える力を育成することが大切である。

(多くの児童生徒ができている内容)

- ◇具体的な事例を挙げて説明することができる。
- ◇新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉えることができる。

(課題が見られる内容)

- ◆登場人物の気持ちの変化を想像しながら読むことができる。
- ◆目的に応じて文章を読みとり、自分の考えを書くことができる。

#### 【算数 A・B】

数学的な考え方や知識・理解について課題が残る。特に、「量と測定」「数量関係」に関しては、数学的な考え方を伸ばし知識・理解の定着を図ることが大切である。

(多くの児童生徒ができている内容)

- ◇平行四辺形の作図の方法や性質を理解することができる。
- ◇円の性質から三角形の等辺を捉え、底角の大きさを求めることができる。

(課題が見られる内容)

- ◆分度器を用いて、180度より大きい角の大きさを求めたり捉えたりできる。
- ◆示された情報から、比較量と割合から基準量を求めることができる。

#### 【理科】

科学的に考えて表現することに課題が見られる。特に「エネルギー」「地球」の領域では、科学的に考えて解決する力を育成することが重要である。

(多くの児童生徒ができている内容)

- ◇メスシリンダーの名称を理解することができる。
- ◇水蒸気は水の気体であることを正しく理解することができる。

(課題が見られる内容)

- ◆振り子の運動の規則性を正しく理解することができる。
- ◆グラフを基に考察して、その内容を記述することができる。



(2) 中学校

- ◇…多くの児童生徒ができています
- ◆…課題が見られる内容

【国語 A・B】

「書くこと」「読むこと」は概ね良好である。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」にやや課題が見られた。

(多くの児童生徒ができています)

- ◇文章から適切な情報を得て、自分の考えをまとめることができる。
- ◇登場人物の心情や行動を読み取り、内容を理解することができる。

(課題が見られる内容)

- ◆語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことができる。
- ◆聞き手を意識して、わかりやすい語句を選択して話すことができる。

【数学 A・B】

「関数」における数学的な技能については概ね良好である。「資料の活用」には課題が見られた。数学的な見方や考え力の育成を図ることが大切である。

(多くの児童生徒ができています)

- ◇一次関数のグラフから、その関係を式で正しく導き出すことができる。
- ◇必要な情報を的確に処理して、その結果を正しく理解することができる。

(課題が見られる内容)

- ◆資料の傾向を的確に捉え、数学的な表現で説明することができる。
- ◆発展的に考えて予想した事柄を説明することができる。

【理科】

「地学的領域」は全国平均を上回り良好である。「物理的領域」も良好である。「化学的領域」「生物的領域」については、科学的な思考力を高めることが大切である。

(多くの児童生徒ができています)

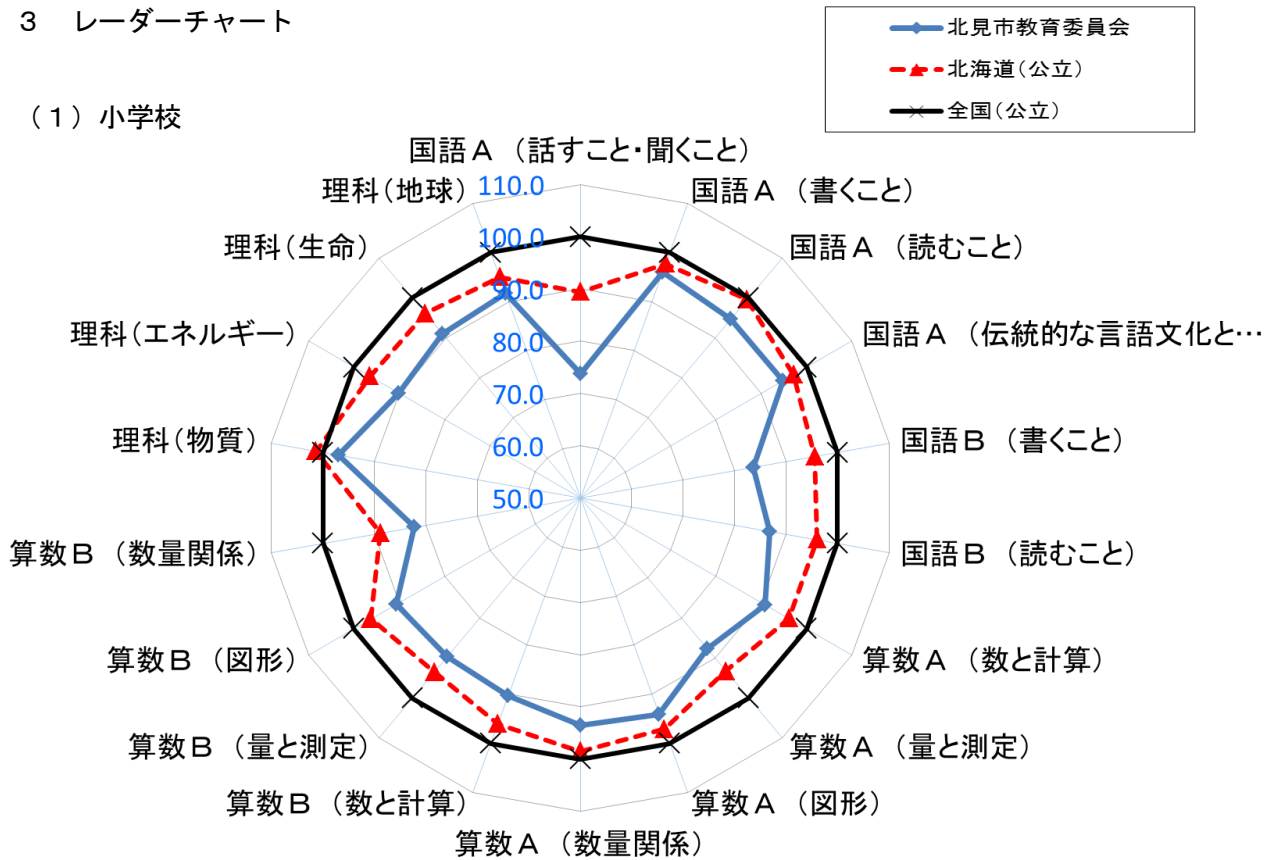
- ◇露点と湿度の関係を正しく理解することができる。
- ◇レンズによってできる像を分析し、規則性を理解することができる。

(課題が見られる内容)

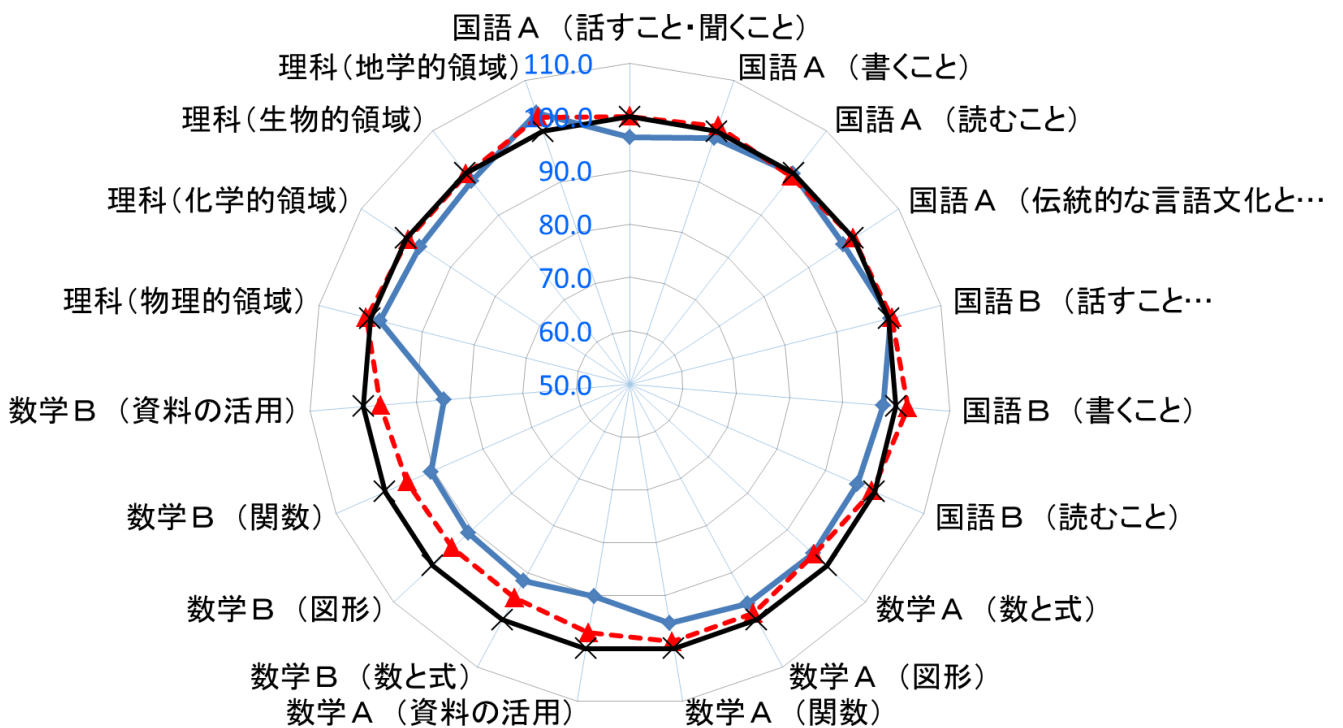
- ◆質量パーセント濃度の水溶液から溶質と水の質量を求めることができる。
- ◆適切に課題を設定したり、課題に正対した考察をすることができる。

### 3 レーダーチャート

#### (1) 小学校



#### (2) 中学校



### Ⅲ 児童生徒質問紙調査の結果概要

#### 1 児童生徒の学習環境・生活環境に関する調査結果（抜粋）

全国比 《◎: +3以上    ○: +3未満～-3未満    ▼: -3以下》 ※( )内は全国

質 問 事 項		小学校 %	中学校 %
1	朝食を毎日食べている	▼92.6 (95.6)	○91.2 (93.5)
2	自分には、よいところがあると思う	▼69.8 (76.4)	○65.9 (68.1)
3	友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意	○49.4 (51.2)	○49.2 (49.6)
4	将来の夢や目標を持っていますか	▼83.3 (86.5)	○72.8 (71.7)
5	テレビ・DVD等の視聴時間が一日3時間以上	▼39.9 (36.1)	▼34.2 (30.5)
6	テレビゲーム（スマホ・携帯含）の時間が一日2時間以上	▼42.4 (30.2)	▼42.7 (36.3)
7	インターネット、メール等の時間が一日2時間以上	▼13.3 (9.8)	▼37.3 (31.3)
8	授業時間以外の、1日当たりの勉強時間が、2時間以上	▼15.9 (25.7)	○37.5 (35.7)
9	授業時間以外の、1日当たりの勉強時間が、30分未満	▼19.4 (12.1)	○15.6 (13.9)
10	読書は好きである	○71.4 (72.8)	▼63.0 (67.9)

#### 2 質問紙調査の結果の考察

学力は、児童生徒の学習環境や生活習慣と密接な関係があり、学力の向上のためには、継続した家庭学習などの学習習慣と家庭における基本的な生活習慣の確立が重要と考えられます。

今年度の調査では、中学校において「将来の夢や目標を持っている」と「1日あたりの勉強時間が2時間以上」と回答した生徒の割合が全国平均を上回りました。また、昨年度の調査と比べると、小学校・中学校ともに「1日あたりの勉強時間が2時間以上」が増加し、「勉強時間30分未満」が減少するなど家庭での学習習慣において改善傾向が見られました。

しかし、生活習慣では、「朝食を毎日食べている」「テレビ・DVDの視聴時間3時間以上」「テレビゲーム2時間以上」「インターネット、メール等2時間以上」が全国平均を上回るなど課題も残りました。

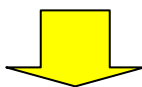
今後も学校と保護者が連携を図りながら、児童生徒の家庭での基本的な生活習慣や学習習慣の形成を支援していく取組が必要であると考えられます。

#### Ⅳ 学力向上の取組

平成27年度全国学力・学習状況調査の結果を受けて、改善の方策として、次のような取組を継続して進めます。児童生徒の学力向上を側面から支える要素として、これらの取組を各学校で積極的に推進していきます。

- ◎学習規律など授業の基盤となる指導事項の徹底
- ◎ICTの活用など授業方法の工夫・改善と充実
- ◎家庭における学習習慣の確立と充実
- ◎読書活動の推進
- ◎家庭での携帯電話やスマートフォン、インターネット利用のルール作りなど生活習慣の改善

【北見市教育委員会としての取組】



○教員の授業力向上を目指した授業の取組と研修会の充実  
「授業改善推進チーム活用事業」「学校力向上に関する総合実践事業」「地域の学力向上支援事業」「地域連携研修」等の取組や「北見市研究指定校」の推進、各種研修会の充実を図ります。

○学力向上推進委員会の推進  
校長会、教頭会、北見市教育委員会が一体となった「学力向上推進委員会」の取組の推進と充実を図り、学力の向上を目指します。  
日常授業の改善に向けて、学習規律の指導、ICTの活用など効果的な指導方法の工夫、実践資料の提供など、実効性のある取組を各学校に提案し実践を進めます。

○個に応じた指導を充実するための人的配置  
少人数指導やチームティーチングを行い、個に応じた指導の一層の充実を図るために、教育活動支援講師を小・中学校に配置します。

全国学力・学習状況調査は平成19年から実施され、今回で9回目となります。各学校は、本調査の結果を十分に分析することにより、現状と課題を明確にし、教育の質を高めるための改善を確実に実行していきます。

子どもたちの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育むためには、学校と家庭・地域との連携が重要です。子どもたちの「生きる力」を育むため、今後とも市民の皆さまの学校教育・家庭教育へのご理解とご支援・ご協力を引き続き、お願い申し上げます。

平成27年9月 北見市教育委員会